

ニュース

第7回国際ミツバチ研究協会熱帯養蜂 会議・第5回アジア養蜂研究協会大会 の開催

標記の会議（共催大会）が、2000年3月20日から25日にタイ王国チェンマイ市で開催された。18・19日には、養蜂ワークショップが先行して催された。19日のBee World Expo 2000の開場式で、ミツバチ関係の功労者への表彰があり、日本人では、鳥取県の末次晃氏と故岡田一次名誉教授が受賞した。会議には、日本から、玉川大学グループの他、アジア養蜂研究協会主催のツアー、Expo出展者、研究発表者など約50名が参加した。会議の詳細は次号に掲載の予定。



故岡田一次名誉教授に贈られた楯

みつばち用アピテン販売始まる

本文で紹介したアピテンの発売が始まった。申込先は日本養蜂はちみつ協会で、協会価格は、1ケース13650円（税込み）。また協会会員以外への販売は日本配合飼料（株）商品事業部（045-450-5717）が窓口となっている。こちらの場合は1ケース16800円（税込み）である。越夏期、越冬前なども利用できるので必要な場合には早めの注文を。なお、使用上の注意をよく読んで、使用法に則って正しく使うことを心がけていただきたい。

Roger A. Morse 博士の逝去

5月12日、元アメリカ・コーネル大学教授のRoger A. Morse博士が逝去された。養蜂家向けに多数の著作（ミツバチ科学でも3冊を紹介）のあるMorse博士は1982年に訪日、ミツバチ科学には1985年に論文を投稿していた。ご冥福をお祈りしたい。

田中肇氏に吉川英治文化賞

昨年、花粉学会賞を受賞された田中肇氏が、今度は吉川英治文化賞（講談社）を受賞された。お祝い申し上げる。なお、近著「花の顔」は次号で紹介の予定。

スタッフの動向

4月1日付で、新島恵子助教授が教授に、中村純講師が助教授に、それぞれ昇格した。

編集後記

今号は、翻訳記事が多く、外地とのやりとりで思わず時間がかかってしまった。昨年11月のアピセラビー学術講演会、今年1月のミツバチ科学研究会のふたつの行事での講演内容を関連の論文と合わせて掲載することができた。

短報として掲載したが、アメリカ腐蛆病の防除には成功しているニュージーランドでバロア病が発見されたのは電子メールのおかげで情報が伝わるのも早かった。

その日本では「みつばち用アピテン」がいよいよ販売開始。すでにご利用になった方もおられると思うが、販売単位が大きいこと、調剤の手間などいくつか問題点が指摘されている。しかし、病気が未然に防がれること、使用した薬剤が生産物に残留しないことがまずは第一義。薬剤の正しい利用を。さらにニュージーランドの事例を見習って、蜂具の管理の規格化や、蜂病検査を日常にうまく取り入れることができれば、忌まわしい災厄を避けることは可能と思われる。安全で健康な養蜂を目指したい。（純）